

生徒・保護者向け 図書館だより

Breeze ~図書館からの風~

令和7年3月4日

Vol. 11

文責 大田二中図書館司書



本を読むことで 自分を成長していきなさい

本は著者がとても苦勞して身に付けたことを たやすく手に入れさせてくれるのだ

ソクラテス (古代ギリシア・哲学者)



本を読んでいる時、ストーリーに描かれていることを実際に自分が体験しているような感覚になったことはありませんか？つまり本を読むことで、疑似体験をすることができるのです。私たちが人生で体験できることは、場所や時間など限りがあります。しかし読書は私たちに様々な経験をさせてくれ、自分の世界を広げる助けになります。春から始まる新生活でも、本を読むことを楽しんでください。



3年生のあしあと ~図書館での記録~

祝

3年間で100冊以上読んだ人

〇〇〇〇 さん	〇〇〇〇 さん
〇〇〇〇〇 さん	〇〇〇〇 さん
〇〇〇〇 さん	〇〇〇〇 さん
〇〇〇〇 さん	〇〇〇〇 さん
〇〇〇〇 さん	〇〇〇〇〇 さん
〇〇〇〇 さん	〇〇〇〇 さん

3年間合計貸出冊数 (2月末)

5328 冊

3年間で
1人あたり

80 冊

みなさんが3年間、気に入って読んでいた本



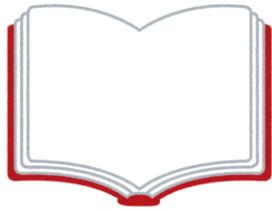
3年生のみなさんは
卒業までに必ず本を
返却しましょう！



卒業の季節におすすめの本

ぼくはいったいどこにいるんだ

ヨシタケシンスケ 著 ブロンズ新社



どう動けばよいか迷った時に必要な地図。自分の未来のための地図をつくってみよう。

ぼくのみらいのちずって、こんなかんじかなあ。
どんなコースになるかはわからないけど、どのコースをとっても、ぼくはぼくらしくなっていくんだとおもう。
どのコースにも、それぞれたからものがかくれているはずだ。

リボン

草野たき 著 ポプラ社



中学2年の3月から中学卒業までの卓球部所属、亜樹の1年間の物語。共感できるエピソード満載。

本当に大変な一年だった。でも、だからこそ大事な一年になった。もう一年前の自分にはもどらない。「かわった」とはとてもいえないけれど、今、確かに去年とはちがう自分がある。少しずつでいい。かわっていい。できるだけ、好きな自分に。

青の刀匠

天沢夏月 ポプラ社



島根が舞台の物語。火事によって島根の遠縁の親戚の家に身を寄せることになったコテツ。そこで出会った刀鍛冶に心動かされていく。

お師匠さんのこと、先輩のお弟子さんのこと、自分の失敗のこと……いい経験をさせてもらってるんだなって思ったのよ。そういう日々の積み重ねが、今のあなたを形作っている。それは紛れもなく、誰のものでもない、あなた自身の財産でしょう。

教室に並んだ背表紙

相沢沙呼 集英社



中学校の図書館を舞台に6つの短編からなる物語。生徒に寄り添うのは司書のしおり先生。「孤独」や「人との関わり」について考え、前に進むヒントが見つかります。

自分に合わないだなんて読む前から決めつけて、ページを捲ることをしないのはもったいないじゃない。同じ色ばかりで揃った書架なんて、つまらないわ。色とりどりの背が収まった自分だけの書架は、きっと青ちゃんの心を豊かにしてくれるから。

校長先生に購入していただいた本(毎月1冊・司書のセレクト本を寄贈していただいています)



卒業 -君がくれた言葉- スターツ出版

卒業という節目の別れや旅立ちをテーマに書かれた短編集。それぞれの短編に登場する人物が、卒業を前向きにとらえ、未来に踏み出します。自分たちの姿を重ね、元気をもらうことができる本です。